

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和2年度

施策コード	413	施策	配慮が必要な子供・家庭への支援
管理事業	こども発達支援センター事業	所管部局	児童部

1	所管室課	こども発達支援センター	事業名	こども発達支援センター管理事業
事業概要				
こども発達支援センター管理				
活動実績				
電気設備、消防設備、建築物・建築設備等の安全点検、修繕を実施。警備安全管理業務を実施。				
		年度	令和2年度	評価の視点
		決算額（千円）	21,199	※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 持続可能性 今後の実施計画の方向性・内容
		一般財源の比率（%）	98.9	
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題		
		平成19年（2007年）に施設が整備されてから14年が経過し、空調機については更新が全くされていないことから、更新計画を作成する必要がある。また、この間の異常気象等の影響もあり、雨漏りが頻発している。市内の障がい児施策推進の拠点施設として運営を続けるためには、施設全体の計画的な改修が必要である。		
		継続		

2	所管室課	こども発達支援センター	事業名	児童発達支援事業
事業概要				
児童発達支援、相談支援、保育所等訪問支援				
活動実績				
杉の子学園では、発達に課題のある児童に対し、集団生活や日常生活のなかで基本的な動作の指導や発達を促すための支援を単独通園により行った。令和2年度末園児数70人。わかたけ園では、上肢、下肢または体幹の機能に障がいのある児童に、発達支援及び理学療法等を親子通園により提供した。令和2年度末園児数35人。わかたけ園では、保健センター等の関係機関から紹介を受けた未就学児を対象とした保護者同伴の親子療育教室を行った。また、関係機関からの紹介を受けた18歳未満の児童に対し、医師の指示のもと、外来訓練（理学療法）を実施した。				
		年度	令和2年度	評価の視点
		決算額（千円）	107,178	※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 持続可能性 今後の実施計画の方向性・内容
		一般財源の比率（%）	93.5	
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題		
		医療的ケアを必要とする児童が増加している。関係機関と連携し、医療的コーディネーターの役割や市内の医療的ケア児への効果的な支援や、特に災害時の医療的ケア児の安全確保のための装備や体制についても検討が必要。		
		継続		

3	所管室課	こども発達支援センター	事業名	地域療育事業
事業概要				
地域療育、通園療育支援、乳幼児健診事後指導				
活動実績				
【通園療育支援の期間延長による拡充】 ・外来相談 一般相談：平成30年度 271件、令和元年度 264件、令和2年度 298件 発達相談：平成30年度 514件、令和元年度 499件、令和2年度 591件 言語相談：平成30年度 276件、令和元年度 254件、令和2年度 171件 作業療法相談：平成30年度 161件、令和元年度 346件、令和2年度 233件 ・各種療法 言語聴覚療法：平成30年度 1,091件、令和元年度 1,421件、令和2年度 942件 作業療法：平成30年度 926件、令和元年度 1,346件、令和2年度 1,390件 ・親子教室 平成30年度 421組、令和元年度 420組、令和2年度 320組 ・巡回相談 平成30年度 491件、令和元年度 467件、令和2年度 321件 ・児童発達外来 令和2年度20件 ・ペアレントプログラム 令和2年度 12件 ・療育等支援事業 令和2年度に21事業所を訪問、聞き取り調査を実施した。 ・身体障害児通園施設長期欠席対策事業 保護者の出産や入院で通園が困難となった児童の療育を受ける機会を保障するために助成を行う。 平成30年度 6名、令和元年度 3名、令和2年度 4名（わかたけ園通園児含む） （令和2年度の実績件数が減少したのは新型コロナウイルス感染症拡大による影響）				
		年度	令和2年度	評価の視点
		決算額（千円）	63,568	※課題があるものは■ <input type="checkbox"/> 市民ニーズ、社会的役割 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 持続可能性 今後の実施計画の方向性・内容
		一般財源の比率（%）	87.0	
		事業自体の課題や対応状況・施策推進への貢献に関する課題		
		支援を必要とする児童は増加傾向にあり、従来の事業のあり方では対応に時間を要するなどの課題がある。関係機関との連携を図り、より効率的・効果的な療育システムを確立するための見直しを行っている。また、児童発達支援を行う民間事業者は毎年増加しており、事業者と関係機関との連携や療育の質の向上を図る必要がある。		
		継続		

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名